



難治性血液疾患の 治癒を目指して



高折 晃史 教授 *From bedside to bench. From bench to bedside.*

血液内科はがん化学療法
のスペシャリスト！

血液内科は細胞療法の
最前線！

血液内科は最先端の
サイエンスに直結！

がん診療の大切さが認識され、抗がん剤の数も種類も多様となった現在、抗がん剤の使い方に長けた医師はどの病院でも貴重です。その中でも血液内科は常にトップランナーとして、指導的立場にあります。血液内科の研修を通して、血液専門医はもとより、がん薬物療法専門医も取得できます。

1970年代に米国で開発・確立された骨髄移植は今や末梢血幹細胞移植や臍帯血移植など多彩なバリエーションを有し、白血病や悪性リンパ腫など、多くの難治性血液疾患の予後向上に貢献してきました。本治療法は基礎医学と臨床医学の融合という点で特筆すべきモデルで、今後iPSを用いた細胞療法などにおいてもその経験と実績が大いに貢献すると見込まれます。血液内科では、その歴史と実践を直に学ぶことができます。また、CAR-T細胞療法など、がん免疫細胞療法の臨床・研究にも力を入れています。

ウイルス学やがんのゲノム異常、腫瘍免疫学、分子標的治療など、血液疾患の診療はそのまま最先端の基礎医学に直結します。当科の大学院では京大以外にも全国トップレベルの基礎研究室で立派な成果を挙げる人が多く、それぞれ速やかに臨床現場にフィードバックできる環境です。またその後、海外留学するケースも大変豊富です(図3)。



血液内科ではアルパカ牧場体験もできます！

研修コース

豊富な関連病院を有する当科(図2)は、専門医制度の改変があっても、各人の状況や希望に応じてフレキシブルな研修キャリアパスを提案できます。

引用改変：一般社団法人 日本血液学会新血液専門医プログラム

■血液専門医研修		赤血球領域	白血球領域	血栓止血領域	合計
到達目標	カリキュラムに定める症例を経験し、症例を登録する	内科 20例	40例	15例	75症例
		小児科 8例	16例	6例	30症例
修了要件	修了認定	内科 15例	30例	10例	55症例
		小児科 8例	16例	6例	30症例

- 研修の評価** | ● 研修指導医が確認と承認を行う。
- 研修期間** | ● 研修終了は、3年以上の認定施設での血液専門医研修の実績が必要である。
● 継続的研修が推奨されるため、各年度最低5症例の経験が望ましい。
- 基本領域との重複等** | ● 経験症例において外来症例を2割まで認める。
● 血液指導医のもとで経験した症例に限り、症例経験の1/2まで基本領域との重複を認める。
- 症例要約** | ● 修了時までに、15症例の症例要約を提出し、査読を経て受理されていることが必要となる。

■研修期間

基本領域研修における経験症例の1/2を上限として認める

	初期研修			後期研修			研修後		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
医籍後初期研修	■								
基本領域研修	■			■					
血液専門医研修							■		
血液専門医連携研修				■					

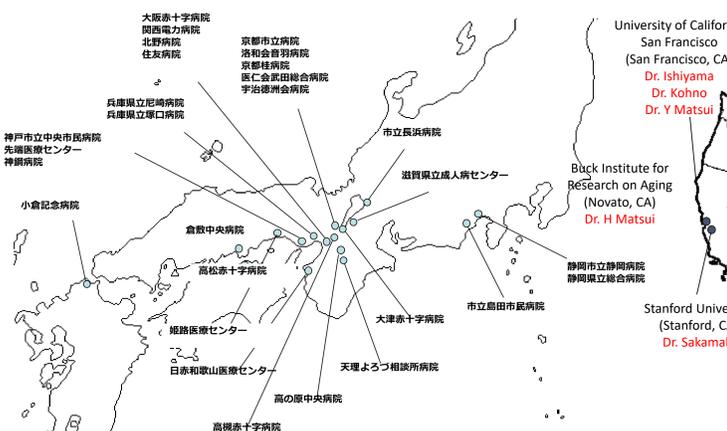
臨床研究

大学内のみならず、国内外で共同研究を行い、介入試験・治験や、疫学研究など、臨床研究を積極的に進めています(図1)。また、統計解析の指導も行っています。臨床関係の論文は、共著も含め、年間20-30本程度が受理されています。

図1: 研究の場



図2: 主な関連病院



全国の大学から当科に集まってきています。皆さんも是非、京大血液内科と一緒に頑張りましょう！

医局員出身大学の都道府県一覧

京都、滋賀、奈良、兵庫、大阪、愛知、和歌山、三重、鳥取、島根、岡山、東京、山梨、金沢、福井、岐阜、富山、新潟、秋田、沖縄

当科での研修に興味を持たれた方はお気軽に、諫田淳也

「無礼講」の研究発表会
血液内科リトリート@宝ヶ池プリンス



橋渡し研究

血小板減少症に対するiPS細胞由来血小板の自己輸血に関する臨床研究
我々は、京都大学iPS細胞研究所と連携し、血小板輸血不応症を合併した再生不良性貧血の患者さんを対象とするiPS細胞由来血小板の自己輸血に関する臨床研究を実施いたしました。

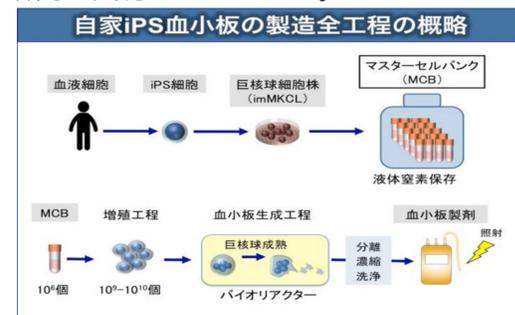
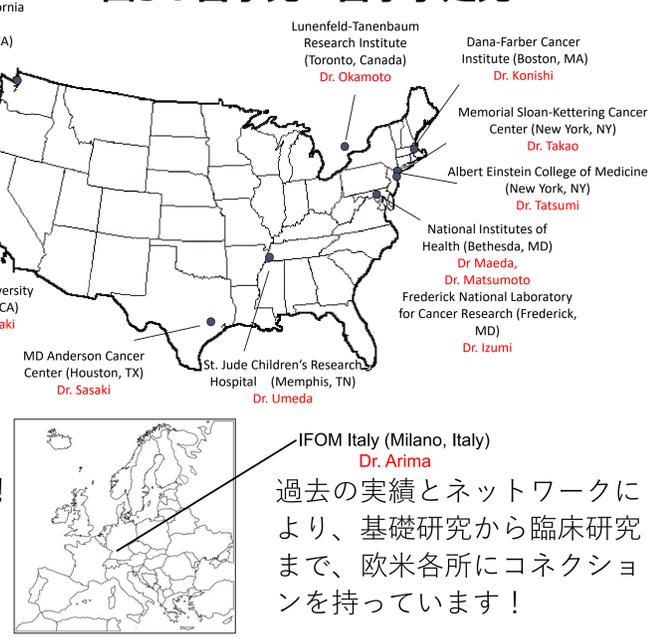


図3: 留学先・留学予定先



当科ホームページ:

<https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~hemonc/index.html>

(hemato@kuhp.kyoto-u.ac.jp) まで連絡を!